

教育委員会会議の議事録（平成27年7月臨時会②）

◆ 日 時 平成27年7月23日（木曜日）午後2時

◆ 場 所 本庁舎2階 第1委員会室

◆ 出席委員 教育長 大越 裕光
教育長職務代理者 宮腰 英一
委員 永広 昌之
委員 草刈 美香子
委員 今野 克二
委員 齋藤 道子
委員 吉田 利弘

◆ 会議の概要

1 開 会 午後2時

2 議事録署名委員の指名 草 刈 委 員

3 協 議 事 項

（1）平成28年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択について

（教育指導課長・教育センター指導主事 説明）

（※以下 A 者、B 者等の呼称と具体の発行者名との対応は、最終頁の「ABC対応表」のとおりです）

【英語】

教 育 長

それでは、協議を始める。

まず、最初に、英語について協議を行う。事務局から、学習指導要領における目標や選定協議会答申等について、ご説明をお願いします。

大黒指導主事

中学校「英語」について、説明する。

中学校「英語」では、（1）初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする、（2）初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする、（3）英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする、（4）英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする、ことを目標としている。

選定協議会においてとりまとめた中学校「英語」の全発行者の特徴は、別紙資料1 答申の「別紙1」の18ページにお示ししている。

選定協議会の答申にある選定協議会として推薦する発行者は、同じく「別紙1」18ページにあるC者、D者、E者とF者である。

選定の主な理由については、まず、C者は「文型練習に止まることなく、一文を付け加えて表現させる活動があるなど一歩先である表現を取り入れているという特徴があり、積極的にコミュニケーションを取ることができるように工夫されている。」ということである。

次に、D者は「身近な場面を中心に、日常生活での会話や人とのつながりについて考えられるように題材が工夫されている。」ということである。

次に、E者は「「聞く」「話す」「書く」「読む」の活動がそつなく網羅され、すべての事項がバランス良く配置されているという特徴があり、4技能をバランスよく総合的に育成できるように工夫されている。」ということである。

次に、F者は「まとめ方が丁寧であり、子どもたちがパターンとして学びやすいように工夫されている。」ということである。

教 育 長
宮 腰 委 員
大黒指導主事

ただ今の説明に対して、何かご質問はあるか。

A L Tの方も教科書を使って指導するのか。

授業の内容によるが、教科書を使ってA L Tと先生と一緒に授業を進める場合もあるし、教科書で学んだことを生かした活動をする場合もあると調査研究委員会で話題になっていた。

宮 腰 委 員

教科書の最後の方に英単語等が載っているが、英和辞典は1年生から使わないのか。

大黒指導主事

辞書を使って単語を調べることも学びの一つとして、学習指導要領にも記載されており、各者で辞書指導も入っている。

宮 腰 委 員
大黒指導主事

そうすると、生徒はみんな各自で辞書を準備するのか。

基本的に生徒が準備することになる。

齋 藤 委 員

小学校の英語活動とのつながりはどのように持っていこうとしているのか。各発行者は、その接続をどのように考えているか。

大黒指導主事

各発行者それぞれ単元の前に、小学校の外国語活動からのスムーズな連結ということで、小単元のようなものを取り入れている。それは各者同じである。ただし、例えばE者、F者についてはその中でも言葉の会話的などところと、新しく導入されるアルファベットや書く活動を切り離して扱っているという特徴がある。

今 野 委 員

今の質問に関連して、小学校から英語の勉強が始まっているが、実際に小学校でどの程度のことをやっていて、それが中学校の英語にどのような形で連動しているのか。

大黒指導主事

小学校の外国語活動としては、5年生から始まっている。年間35時間で大体週1回程度を目途に、活動に取り組んでいる。その活動は、話す活動と聞く活動が中心である。

草 刈 委 員

今の質問に関連するが、選定協議会の中で、子どもたちが英語に触れてきていい面と、アレルギーのような症状で引いてしまう子どもがいるという記述があるが、それはどういった形でそれを判断しているのか。

大黒指導主事

いい面として、小学校の外国語活動では話す活動や聞く活動を中心に行っているので、新しく中学校で導入した場合でも、これは聞いたことがあるとか、これはやったよねということで、子どもたちが難しさを感じることなくスムーズに活動に入っていけるということが、調査研究委員会で話題になっていた。難しい点としては、聞く、話す活動について、自分から話すことにどうしても苦手意識を持ってしまう子どもがいたり、聞くことも日本語とは音が違うので、聞き取れないという不安から苦手意識を持つ子どもがいるようだと言及調査研究委員会で話題になっていた。

永 広 委 員

中学校の授業では、リスニングがかなり入ってくると思うが、リスニングはどういう形で行われているのか。先生が読み上げるのか、あるいはCDなどを使うのか。

大黒指導主事

それぞれの先生の取組みにもよるが、先生が実際に話す場合もあるし、CDが付録でついてくることがあるので、そのCDを聞かせる場合もある。仙台市においてはA L Tが各校配置されているので、A L Tが話す英語でリスニングをすることもある。

永 広 委 員

今の質問と関連して、選定協議会等の議論でリスニングの点について、例えば先

生方の話あるいはCDを使うことを含めて、それが教科書選定の過程で評価として入っていたのか。入っていたとすれば、どのような議論があったかご紹介いただきたい。

大黒指導主事
草刈委員

その点については、詳しく議論されなかった。

選定協議会の中で、教科書が改訂された場合に、発行者内でも1, 2, 3年生の内容が変わってくる可能性があって、その場合は補助資料で対応しているということであった。その補助資料というのは、発行者自身が出すものなのか、あるいは先生方が対応するものなのか、教えていただきたい。

大黒指導主事
今野委員

今までは発行者から新旧対照表のような形で、一覧で提供されていた。

選定協議会で4者を推薦しているが、中学校1年生, 2年生, 3年生と進むにつれて、覚えるべき単語があると思う。それは発行者によって大分差があると思うが、発行者が変わった場合、そういうことも含めてどのような問題点があるのか。

教育指導課長

英語の目標というのは、学年ごとの目標ではなく、3年間を通して身につけるものとされている。そこで、教科書会社によって、1年生, 2年生, 3年生それぞれ教科書で学習する文法事項や語句が異なっている。そのため、1年生で使用した教科書と同じ発行者の教科書を、そのまま2年生, 3年生で使用していくことになっている。したがって、仮に発行者が変わっても未履修のものが出ないようにしている。

教 育 長

3年間で習得する単語は、発行者が違っても、それほど大きな違いはないと理解してよいか。今野委員からは、各者で単語の習得数が違うかどうかも含めてのご質問だったが。

大黒指導主事
教 育 長
大黒指導主事
教 育 長

3年間で同等数の単語を習得するようになっている。

どの者でもおおむね同じ量の単語を習得するという理解してよいか。

そのとおりである。

他に質問等がなければ、次にご意見を伺ってまいりたい。昨日と同じように、ご自身の推薦する者も含めてご意見等をいただきたい。

吉 田 委 員

私は、各者の教科書を2つの視点から拝見した。1つは、小学校の外国語活動から中学生の教科書の英語に、ギャップなくスムーズな移行を図るための内容はどうかという点である。もう一つは、4つの分野の中でも表現である話すこと、書くことにどういう焦点の当て方をしているのかということである。それらがしっかりしていれば、必然的に読む、聞くという力にも関係してくるという考えで、その2つの視点で見させていただいた。

1つ目の、スムーズな移行という点では、どの者も大変工夫されているという感じがした。特に、導入のあり方について、これから頻繁に使われるだろう数字や曜日、色などを取り入れながら、紙面構成を工夫している。スムーズに移行するために急に活字を多く使うのではなく、絵を入れながらバランスよくやっている。文字の大きさ、配置もバランスよく構成されていると感じたのが、D者, E者, F者であった。

もう一つの表現、特に話すということでは、これもどの者も一生懸命構成されている。本文を学習した後、適度な間隔で問題があって、必ずそこにスピーキングというコーナーを設けている。その後、各章で同じように会話的なものを取り入れ、最終的にはプレゼンテーションなどのコーナーでまとめるといった形になっている。系統的にきちんとスピーキングが押さえられているのが、A者, E者, F者であった。その中でも、それ以上に発展させるという意味で、プレゼンテーションをして、自分たちで話したり書いたりしたものがどうなったのかという振り返りの視点としてチャレンジコーナーを設けて、模範文を設定して、自分の書いたものについて振り返ることができるものを唯一設けていたのがE者であった。それらを総括して、

私はE者を推薦したい。

齋藤委員

私もE者は非常にプレゼンテーションその他で優れていると感じていた。

聞く・話す・読む・書くという目標に対して、満遍なく網羅していて、1年生から3年生までの教科書にストーリー性があって、生徒の興味を引くという意味で、私はC者を推したい。

生徒の興味を引くという意味では、身近な題材をもとに着目していて、親しみが持てると思ったのは、D者であった。

ただ、私としては、C者を推したい。

今野委員

一般的に昔の教科書と違って、読ませる英語から日常会話重視に大分変わってきているという印象を受けた。B者とD者には1年生で日本文化を紹介するページがあり、実践的でより身近な内容となっている。

E者の3年生の教科書では、日本文化の紹介を単に伝統文化の内容だけでなく、現代のマンガやアニメなど、あるいはポップカルチャーも含めて分かりやすく説明している。

F者の1年生の教科書では、子どもたちが小さい頃に読む絵本「ばばあちゃん」が載っており、非常に親しみがあって興味を持った。

C者の1年生の教科書には、内容を補うドリル帳がついていて、理解を深めるのには非常に役に立つと思う。アクティビティというところは、英会話の入口になりそうな感じを受けた。3年生の教科書には、京都旅行に行き、外国人と料理人との会話の中で、日本の伝統文化のだしが載っている。今後ますます日本人が海外に行く、また外国の方が日本に来るということを考えると、実際に使える英語としても面白いと思った。

F者、C者について、写真がたくさん入っていて、登場人物のイラストが出ているが、少し写真を見にくくしている。むしろ写真だけの方が見やすいかなという印象を受けた。

全体として、E者とC者がいいと思っている。その中でも1者に絞るのであれば、E者がいいと感じた。

草刈委員

小学校でせっかく英語に触れてきている子どもたちが、中学校に入学する時点ですでに引いてしまっているというのは、とても悲しいことだと思う。まず、そうした子どもたちに配慮をしなければならないと考え、各単元のタイトルに注目して見てみた。そうすると、日本語で書いてあったり、英語のみで書いてあったりという部分があるが、教科書を開いた時にすべて英語で書いていると、引いている子どもはなおさら分からずに、さらに引いてしまうと思う。そういう時には、タイトルに日本語がしっかりと入っている方が良く、C者とE者はしっかりと日本語で書いてあるので、子どもたちにとってはとても安心するものだと思う。こちらは2年生になると、きちんと英語のタイトルに変わっているので、そうした配慮をしていると感じた。

もう一つの視点は、中学校1年生になって最初の山場・関門は、be動詞だと思っている。そのbe動詞について一番分かりやすいのはどれかという視点ですべての教科書を見ると、C者とE者がとても分かりやすいと思った。特にE者は、図解を入れて、とてもシンプルで分かりやすいと思う。また、E者は再導入部分に1年かけて少しずつ覚えましょうという挿絵のコメントがあったので、そういう意味ですべての子どもたちに優しい教科書だと思うので、私はE者を推薦したい。

永広委員

まず、すべての教科書が小学校とのつながりということについては、それなりに意識されていると思う。話す・聞く・読む・書くという4つの機能についても、基本的にはそれぞれ生かせるような教科書になっている。その中でも、どれがより好ましい内容になっていたかと言えば、小学校とのつながりでは、C者とD者とE者

が量も中身もかなり詳しく扱っていて、つながりの重視という意味ではこの3者が良かった。

それから、自分で英語を勉強する、あるいは後で振り返るということを考え、辞書やいろいろな資料類を確認した。すべての教科書の巻末に用語集がついていて、最低限はそれでも済むが、やはり自分で辞書を引くということは中学校できちんと身につけておかなければならないことである。辞書の引き方という点では、E者が最も丁寧にスペースをとってきちんと説明していた。C者も比較的分かりやすい説明になっていた。いろいろな資料類では、例えばD者の裏表紙に「こんなときどう言うの」というのがついていて、いろいろな場面で立ち返ってみるには、非常に実用的だと思う。E者の基本文型等の資料も非常に役立つように感じた。C者は付録がついているが、この付録はもろ刃の剣のように思う。うまく使えばいいが、そこまで授業で使いこなせるのか疑問に思うところもあり、やや評価は難しいと考えている。

すべてを総合して考えると、今挙げた3者の中ではE者とD者が良く、どちらかと言えば、E者、D者の順である。

宮 腰 委 員

私は、結論から言えばE者が1番で、それぞれ特徴はあるが、D者とF者が2番手、それからB者が4番手と考えている。

まず、E者は小学校からの継続性という意味では、かなり工夫されていると思う。発音記号はB者がかなり使っているが、E者も発音記号ということではないが、アクセントを置く場所を示している。やはり英語発音というのは、アクセントを付けないと全く通じない。私もイギリスでそういう経験をしたが、ある程度リズムで覚えるということで、E者はそうした工夫がされている。それが選定理由の1点目である。2点目はより重要だが、学年ごとに最後にユニットと称して基本文、各章ごとにユニットごとに基本構文が明確になっている。この全体を理解できれば、3年間きちんと3冊の教科書を理解できたと考えられる。そうした基本構文を理解して、それをまず学んで、さらにそれを使って相手に対して発信していく。そうした自己表現、プレゼンテーションにもつながる工夫がされている。特に、英文で表現して、被災地でのいろいろな出来事を継承していくというものが3年生の58ページに出ている。そういう形での表現、プレゼンテーションには、こうしたそれぞれのパターンを使うとできる、そこまで非常に緻密に構成されている。それが選定理由の2点目である。もちろんその中で取り上げられている文章も、今日最も重要なものを取り上げているので、非常に素晴らしいと思う。

2番手は、F者とD者と考えている。まずF者は、対話法でのやりとりの形が特徴的なものだと考えている。さらに、読み物というのは非常に重要な点で、英語であってただ挨拶ばかりでは生徒は面白くないと思うので、非常にいい読み物を取り上げている。一つは、最近ノーベル平和賞をとったマララさんについて、3年生の教科書にマララさんが教育の必要性、大切さを訴えたプレゼンテーションが載っている。さらに、戦争に関わるいろいろな読み物、その当時の記録が他の教科書にも出ているが、F者では上野動物園での3頭の象の死、害を与えないように動物を殺したという、戦争の悲惨さを伝える読み物として取り上げられていて、非常に適切なものの一つだと考えている。

D者については、これも読み物として、リトアニアの杉原さんという方が領事代理でビザを作って人々を助けたという話があるが、それも非常に感動的だった。そうした読み物が非常に良かったと思う。

C者については、アンネの日記等を取り上げて、戦争の悲惨さを英語教育で理解するという面では非常に良かった。

B者については、我々が中学校時代に習ったような文法を中心にしている。そう

いう意味では、先生方も教えやすいと思う。しかも中の読み物についても、スーダンの内戦の問題を取り上げていて、現代の非常に重要な課題を取り上げている。英語を通してそうしたことを考えるというのも、中学生にとっては必要なことなので、B者も候補として挙げたいと考えている。

A者については、アンネの日記等が題材として取り上げられているが、全体として少し読みにくい。いろいろな事項が盛り込まれているが、全体としての整合性という点で、他者に劣ると感じた。

以上のことから、E者をまず第一に推したい。

教 育 長 一通り各委員のご意見を伺った。ばらつきはあるが、全者の意見は出たようである。この者についてもコメントしたいというご意見があればお願いしたい。

特にないようであるが、一通り聞いてお分かりのとおり、E者を推す方が6人中5人だったので、E者を中心に考えていきたい。2番手としては、D者とC者という感じだが、特にC者を押した齋藤委員、他の委員はE者という意見が多かったが、何かコメントはあるか。

齋 藤 委 員 先ほど草刈委員がおっしゃったように、E者だけが目次の部分を日本語で書いており、活動の目標というのがきちんと明確に明記されている。他の者にはなかったので、E者の目次はいいなと思っていたので、私もE者で結構である。

教 育 長 そういうご意見が出たので、結論的には全員がE者という形となった。特にE者以外であらためてコメントを加えたいというご意見はあるか。

意見としてはあまり分かれなかったもので、英語はE者ということによろしいか。

各 委 員 異議なし。

教 育 長 ご異議ないようなので、英語に関してはE者ということにしたい。

【社会（地理的分野）】

教 育 長 次に、社会（地理的分野）について協議を行いたい。事務局から、学習指導要領における目標や選定協議会答申等について、ご説明をお願いする。

前川指導主事 中学校「社会（地理的分野）」について、説明する。

中学校「地理」では、（1）日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う、（2）日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえ、それを地域の規模に応じてそれを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色や地域の課題をとらえさせる、（3）大小様々な地域から成り立っている日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察し、それらの地域は相互に関係し合っていることや各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること、また、それらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる、（4）地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる、ことを目標としている。

選定協議会においてとりまとめた中学校「地理」の全発行者の特徴は、別紙資料1答申の「別紙1」の3ページにお示ししている。

選定協議会の答申にある選定協議会として推薦する発行者は、同じく「別紙1」3ページにあるA者とB者とC者である。

選定の主な理由については、まず、A者は「単元末にある「学習を振り返ろう」のページがあり、学習したことを復習したり、振り返ったりできるように配慮され

ている。」ということである。

次に、B者は「学習課題が適切に示され、またそれに対応した「学習のまとめ」のページが配置されており、生徒にとって学びやすい工夫がされている。」ということである。

次に、C者は「各単元の最初に小学校の学習を振り返るように示されており、小学校の学習事項との関連に配慮されている。」ということである。

教 育 長
草 刈 委 員

今の説明に対し、ご質問はあるか。

調査委員会の報告書の15ページにある組織と配列に関することについて、C者とB者に「州ごとの学習内容の精選が図られている」と記載されているが、私が見た限りではA者にも州ごとのまとめがあると思った。この学習内容がまとまることのメリットが、先生方の授業について何かあるのか。州ごとにまとめて、そうしたものを学習しなければならないことは必要なのか。

前川指導主事

諸地域の学習では、州ごとにテーマを設けて学習することになっているが、B者とC者は、そのテーマに捉われず、生徒たちがそのテーマ以外でも学習できるように構成されていると専門委員会では話題になった。

教 育 長
教育指導課長
今 野 委 員

社会（地理的分野）は、次に協議する地図と連動しないと理解してよいか。

そのとおりである。

C者の5ページに、地球を遠くから見ている写真がある。日本の近くに巨大な台風が見え、見る人によっては心を痛めると感じた。この写真を採用した意図が分からなかったが、偶然この写真になったのか、あるいは日本と台風との関係が分かっただけのために、あえてこの写真を採用したのか分かれれば教えていただきたい。

前川指導主事

選定協議会等ではこの写真について話題にならなかった。また、趣意書等にもこの台風について記述されていない。

今 野 委 員

日本全体を取り囲むくらいの大きい台風なので、何か意味があると思ったが、特に意味はないということか。

前川指導主事
今 野 委 員

おそらく、特に意味はないと思う。

領土問題など、どのように考えていいのかわからない点があると思うが、中学校の教科書として、考え方の基準があれば教えていただきたい。

前川指導主事

学習指導要領解説には、このように書いてある。「北方領土が我が国の固有の領土であることなど、我が国の領域をめぐる問題にも着目させるようにすること」と、大きく書いてある。それぞれの領土についても詳しく書いている。「北方領土や竹島について、それぞれの位置と範囲を確認させると共に、我が国固有の領土であるが、それぞれ現在ロシアと韓国によって不法に占拠されているため、北方領土はロシア連邦にその返還を求めていること、竹島については韓国に対して累次にわたる抗議を行っていることなどについての的確に扱い、我が国の領土、領域について理解を深めさせることも必要である」と書いてある。

また、尖閣諸島については、「我が国の固有の領土であり、また現に我が国がこれを有効に支配しており、解決すべき領有権の問題は存在していないことを、その位置や範囲と共に理解させることが必要である」と書いてある。

教 育 長

それに沿って、各教科書がどうなっているか。すべての者が学習指導要領解説に沿って記載されているということか理解してよろしいか。

前川指導主事

4者それぞれ少しずつ記述の仕方に違いはあるが、基本的にはすべて学習指導要領解説に沿って記載されている。

教 育 長
宮 腰 委 員

それでは、また同様にご意見を伺っていきたい。

まず結論から申し上げますと、A者とB者はなかなか甲乙つけがたいところがある。いわゆる領土問題の概念は地理できちんと教える必要があると思う。海、土、空と

あるが、4者すべてで領土問題、領域問題を説明しているが、より明確なのはA者とB者であり、かなりページ割いて詳細に説明している。

A者については、それぞれの地域の写真や地形図が載っていたり、非常に色彩も鮮やかで見やすくなっている。ヨーロッパ州、アフリカ州という形でそれぞれの節があるが、ヨーロッパではEU問題をきちんと説明しているし、アフリカは人口問題あるいはこれからの産業問題ということで、きちんと説明されている。特にA者は、地域ごとに最後にまとめがあって、学習を振り返ってみようという形になっている。ヨーロッパもEU問題だけではなく、観光問題、歴史問題などいろいろあるので、なかなかまとめるのは難しいが、最後に振り返ってみようということで、問題別に地域ごとのまとめができるようになっているので、この点が非常に優れた点だと考えている。

B者については、領土問題や災害への備えということについても、かなり明確に説明しているので、これも推薦できると思う。

C者、D者についても、それぞれ特色ある構成になっている。D者については、特に世界の多文化共生問題に強調された特徴が見られる。C者については、非常に多面的に満遍なく網羅されている。つまり、先ほどの国土問題、世界の産業問題、民族問題、宗教問題という形で、非常によくまとめられている。

トータルで見ると、最初に申し上げたA者を第一候補、B者を第二候補として推薦する。

永 広 委 員

最初に、この地理という科目の観点について説明があった。すべての教科書を見たところ、そういう観点に関してはすべての教科書が網羅していると思う。例えば、世界の各州の紹介、あるいは日本の諸地域の記述の仕方でも、まず自然について触れた後で、いろいろな地域の歴史、文化あるいはさまざまな課題を明らかにして、それぞれ最初の狙いが分かるような構成になっている。地理の場合には、調査というのが非常に重要だと思うが、いずれの教科書も最後の大きな単元で、身近な地域の調査という課題を上げて、調査の仕方、まとめ方についてきちんと触れている。さらに、どの教科書も多彩なコラムを設けて、子どもたちの理解を助けているという意味では、いずれの教科書も優れていると思う。

その中で、さらにどれがよりいいかと言えば、A者がいいと思う。A者はたくさんの図や写真を用いているという点では、他の教科書と同じだが、A者はメリハリのある使い方をしていて、所々に迫力のある大きな写真や図を効果的に使っている。それから、世界と日本の諸地域の導入の部分に、世界の各州についてはどういう観点で書かれていて、どういう課題があるのか1ページに分かりやすくまとめている。日本についても同様に、導入の部分がきちんとしている。すべての者にコラムはあるが、A者は図や資料の読み取り方や使い方を中心に、その技能を磨けるような中身になっていて、非常に充実しているのが特徴だと思う。

A者に次ぐのが、C者だと思う。C者も非常に効果的な図や写真の使い方をしていて、日本の諸地域については導入のところで7つの視点を明らかにして、どういう視点で日本の各地域を眺めればいいのか導入のところははっきりしている。コラムも調べ方、読み取り方を中心に非常に詳しい。細かいところだが、東北地方を扱う中で「深めよう」というコラムがあり、仙台市の例が取り上げられているので、身近な教材という意味でいいと思う。

A者とC者の違いは、用語解説である。すべての教科書に用語解説はついていて、A者の用語解説は、その用語が出てくる各ページにあって、その本文を読んでいる時に、すぐその解説を眺めることができる。C者やB者、D者は、巻末に用語解説がまとめられていて、各ページを見る時には、いちいち巻末を見なければならない。これはいろいろな使い方があって、後でいろいろ眺めてその用語を

調べる際には、巻末にまとまっていた方がいいという見方もあり、これはどちらがいいかは使い方次第だと思う。

このA者、C者に比べると、B者、D者もそれぞれいろいろなことが扱われている。例えばB者は、東北地方の最初の導入がかなり詳しいが、その他の点ではやはりA者、C者の方がより分かりやすい教科書になっていると思う。それほど大きな違いはないが、順序としてはA者、次いで小差でC者というところである。

草刈委員

すべての教科書について、領土問題や防災について拝見したが、どれも丁寧に扱っている。

A者については、単元ごとに課題が与えられていて、確認と振り返りができるようにまとまっている。写真もとても多く使われていて、世界に向けての関心と学習意欲も深まると思った。西ノ島の写真や新しい事実も取り上げられており、大変すばらしい教科書である。

B者については、キーワードや課題がとてもはっきりと示されていて、学習のポイントが掴みやすいと思う。特に、選定協議会の報告書では西ノ島の写真についてはA者だけに記載されているが、B者も132ページにきちんと載っていて、世界から見た日本を示している。それから、今後のエネルギー課題についても考えさせるような工夫をしており、また領土問題についても、かなり詳しく取り上げている。特に、振り返りの場面で学習のまとめの「チェックボックス」というものがあり、そこに最初に出しているキーワードと関連させて答えさせようとする工夫が見られる。スタートからまとめまで一貫して学習しやすいと思うので、A者、B者どちらもすばらしいが、私はどちらかと言えばB者を推薦したい。

今野委員

北方領土問題については、それぞれ詳しく載っているが、特にA者とB者が丁寧に説明している印象を受けた。私が常に考えるのは、その教科書を見て興味が持てるかどうか、誇りが持てるかどうか、そして夢が持てるかどうかということを考えてながら読んでいる。地理の教科書にそういうものを入れるのにはどうしたらいいか考えると、それぞれの教科書の最初のページにいろいろな国、地域の紹介がある。そうしたものを紹介するのは理解できるが、A者に関しては少し面白いものを紹介していると感じている。日本の技術や文化を紹介している。最先端の技術だけではなく、食文化や遊び、カラオケ、若者の着る物の文化などである。けん玉や日本人がほとんど使わなくなってしまった蚊帳なども載っている。これを見ることによって日本人が考えたものが世界中に認められて、それぞれの国に興味を持ちながら、そうした国々にまで日本の技術や文化が浸透しているだと認識するという意味では、地理に興味を持てると思う。興味を持たせてからスタートするという意味では、A者がいいと思う。2番手はB者だと思う。

齋藤委員

私も非常にどの者も地域と密着しているということを感じた。最後の方にまとめをしているということで、どの者も評価できると思う。

私も今野委員と同じように、地理は特にパッと見て、いかに生徒たちが興味を持つかというあたりが一番の視点だと思う。そうした視点で見ていくと、写真の配列などから、A者が一番いいと思う。

C者の「深めよう」についても、非常に面白く読ませていただいた。

原子力発電所の事故、再生可能エネルギー、それぞれ扱っているが、特にB者はそれを大きくきちんと扱っているということでは、評価すべきだと思う。

ただ、一者と選べと言われれば、A者を推薦する。

吉田委員

まさに各委員がおっしゃったとおり、例えば領土の問題など、押さえるべきことは各者共通して押さえているし、またそれぞれの個性がある。例えばD者は「地理的アプローチ」というコーナーがあり、地図の見方やグラフの読み取りをしっかりと押さえている。また、導入部分ではC者が住居の違いから気候帯の違いを理解さ

せるようにユニークな編集の仕方をしている。

私は子どもにとっての学びのリズムということで見たが、最初に世界の生活と環境ということで、主に気候、地形というものを扱っている。その後、各州に入るが、A者、B者は必ず気候について、既習事項を踏まえてかなりページを割いて触れているので、スムーズに入っていける。また、各日本の地方の学びの段階も、ある者は各テーマがそれぞれ違うこともあるが、A者、B者は必ず気候というものを押さえて順序立てているということで、同じ項立てでいくことによって、子どもたちにとって違いが分かるようになっていて、かなり効果的な編集内容であり、A者、B者がいいと思っている。

私が一番気にした部分は、自然災害、特に日本の自然災害というところであり、もちろん各者が触れている。その中でハザードマップ、または防災マップという形で触れているが、ほとんどの者はいわゆるハザードマップの見方、使い方まで終わっている。一方、B者だけは「ハザードマップをうのみにせず臨機応変に判断し、最善を尽くす必要があります」という断り書きがある。これは非常に大切なことである。それは、皆さんもご存じのとおり、岩手県、宮城県でハザードマップで浸水がゼロと予想されていたところでも、被害が非常に大きかった。そうしたことを振り返れば、今後起こるだろう南海トラフ地震の被害が想定される地域に住む人たちが、いわゆるハザードマップ読み取りだけで終わっていいのか、そういうことまで留意しなさいという断り書きがあるB者の配慮を私は評価したいので、B者をお勧めしたい。

教 育 長

一通り各委員のご意見をお聞きした。総合的に非常に発信力のある作り方をしているのがA者で、震災の例で臨機応変に対応した事案を取り上げて、また課題が深めやすいという点でB者というご意見であった。第一候補としては、A者が4名、B者が2名ということである。宮腰委員はA者、B者のどちらも甲乙つけがたいがA者というご意見であった。この2者に絞って、また議論を進めてまいりたい。草刈委員はB者が第一候補、A者が第二候補ということで、拮抗していると思うが、各委員の意見をお聞きして、あらためていかがか。

草 刈 委 員

私はA者もB者もどちらもすばらしい教科書だと思っている。本当に甲乙つけがたく、どちらでも子どもたちにとって勉強しやすい教科書であると考えている。

教 育 長

一応順位はつけたが、同列ということか。

草 刈 委 員

はい。

教 育 長

今野委員はA者が第一候補で、B者が第二候補ということだったが、各委員のご意見を聞いてA者、B者について何かコメントはあるか。

今 野 委 員

私もどちらもすばらしい教科書だと思う。ただ、先ほど申し上げたとおり、最初に興味を持てるという意味では、最初にそういうものを示しているのは大事な気がするのですが、そういう意味でA者がいいと思う。

教 育 長

宮腰委員もA者が第一候補で、B者が第二候補であったが、あらためていかがか。

宮 腰 委 員

やはりA者がきちんとまとめて、地域ごと、特に世界の州ごとのそれぞれの地域の課題整理というものをまとめるのところにきちんと整理できるようになっているという点からすると、A者がいいと考えている。どちらも非常に色彩も鮮やかで、きれいであるが、どちらかと言えばA者の方が見やすいと思う。

教 育 長

A者、B者について確認したが、B者を第一に推薦した吉田委員、各委員のご意見を踏まえてあらためていかがか。

吉 田 委 員

命あってこそこの学びだと思うが、トータル的に物事は考えなければならないだろうと思う。先ほど永広委員からもあったが、子どもたちの地域調査ということで、その調査の在り方について推薦したいのは、C者とA者であった。なぜかと言えば、調査のテーマの在り方、いわゆる調査の質はテーマによって決まってしまうが、そ

のテーマ設定の在り方について詳しく丁寧に触れているのがC者とA者だと考えているからである。したがって、B者も大切にしたいと思っているが、各委員のご意向を踏まえれば、A者でもいいと思う。

教 育 長 今のご意見からすると、A者に集約できると思うが、あらためて何かつけ加えるご意見等はあるか。今、A者、B者について確認したが、C者も捨てがたいというご意見もあったが、永広委員よろしいか。

永 広 委 員 はい。

教 育 長 草刈委員も先ほどA者、B者同列に扱っていいというご意見だったので、それでは、社会（地理的分野）に関してはA者という協議結果でよろしいか。

各 委 員 異議なし。

教 育 長 ご異議ないようなので、社会（地理的分野）に関してはA者ということにしたい。

【地図】

教 育 長 次に、地図について協議を行いたい。事務局から、学習指導要領における目標や選定協議会答申等について、ご説明をお願いします。

前川指導主事 中学校「地図」について、説明する。

中学校「地図」では、広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う、ことを目標としている。

選定協議会においてとりまとめた中学校「地図」の全発行者の特徴は、別紙資料1答申の「別紙1」の8ページにお示ししている。

選定協議会の答申にある選定協議会として推薦する発行者は、同じく「別紙1」8ページにあるA者とB者である。

選定の主な理由については、まず、A者は「鳥瞰図がきれいで見やすいため、世界や日本の諸地域の特徴が大観できると共に、生徒が興味・関心を持って学習できる。」ということである。

次に、B者は「地震と津波や浸水域など東日本大震災に関する資料が充実しており、防災に関する意識が高められるよう工夫されている」ということである。

教 育 長 今の説明に対し、ご質問はあるか。

草 刈 委 員 どちらも大変すばらしい教科書なので細かいところを拝見することになる。どちらの教科書も157ページの資料について、資料の年度はあまり関係ないという話があったが、157ページの日本の主な都市の月平均の気温、月降水量をどちらも扱っている。B者は平成26年の理科年表になっていて、A者は平成27年の理科年表になっている。数値を四捨五入するかしないかでほぼ同じだと思うが、この辺について、選定協議会で話題になったのか教えていただきたい。

前川指導主事 資料が新しい、古いということについて選定協議会では話題にならなかった。この雨量の資料やその他の資料について、新しい資料だから良くて、古い資料だから悪いというような話にはならなかった。

草 刈 委 員 同じ資料を扱っているのに、一方は平成27年で、一方は平成26年となっているが、これについても特に問題はないのか。

前川指導主事 気候等については1年ごとに特に大きく変わることはないので、学習には支障がないと考えている。

教 育 長 他に質問等がなければ、2者のうち、どちらを推薦するかも含めてご意見を願います。

齋 藤 委 員 A者の鳥瞰図がすばらしいというご意見があったようだが、私はB者の海溝の表

現がすばらしいなと感じている。詳しく見ていくと、A者の13ページで世界の環境問題を取り上げており、きちんと下の帯の部分に、環境問題への取組みという形で取組みの部分をきちんと掲載している。どちらも本当にすばらしいが、A者を推したいと思う。

草刈委員

私もA者である。色彩が鮮やかでとても分かりやすいということ、資料、図表の表現が一目で何を示すのか誰にでも分かるように工夫されているということ、もう一つはB者の方には多分なかったと思うが、尖閣諸島が75ページにしっかりと別地図として記載されていた。B者の方はとても色合いが優しくて、目にも刺激がないが、その点でA者を推薦したいと思う。

宮腰委員

どちらも類似しているが、B者の特徴はそれぞれ地域の産物もいろいろ書いていることである。蟹であったり、リンゴであったり、観光マップのような感じにもなっている。それに対してA者は地図に特化している。所々にはリンゴが載ったりもしているが、それぞれの地域での産物等についてはほとんど触れられていないので、かえって見やすいと思う。最近は、観光マップもたくさんあるので、この地図で確認する必要はないと考えている。そういう意味では、A者の方がシンプルで極めて見やすいということで、A者を第一候補としたい。

先ほど草刈委員から、統計の資料について指摘があったが、この地図帳の発行が平成27年3月31日になっている。これは次年度の教科書になるので、これでいくのか、あるいは平成28年の資料という形になるのか。北陸新幹線がまだ載っておらず、駅名も旧来の信越線のままになっているので、この辺がどのように扱われるのか気になった。

教育長

平成28年度使用の教科書という形で、平成27年3月31日発行の資料として見ているが、いずれにしても来年度使用する教科書としては、データが最新のものに修正されるのか。

教育指導課長

今見ていただいている教科書については、教科書見本本と言っている。来年度実際に子どもたちの手に渡る教科書については、この後、教科書会社によって若干の修正が入ると聞いている。ただし、今指摘していただいた点が修正されるかどうか今のところ分からないが、何らかの修正されたものが子どもたちの手に渡ることになっている。

吉田委員

やはり地図だから見やすさが先行されると思う。色調が一番影響すると思うが、私の目にはB者は落ち着いた色調がゆえに、そこに印字されている活字がより鮮明に理解しやすいという印象を受けている。A者は鮮やかで、私たちはこのA者の色合いを見続けてきたためなのか、A者の方に引かれるが、その他の資料などを見た時に読み取りやすいのはB者という印象を受けた。また、索引などの字の大きさも引きやすいという印象である。先ほど宮腰委員からお話があったが、たしかに中部地方を見た時に、B者は産物たくさん載っているが、東北地方を見た時には、両者変わらない内容の表記である。その辺どうなのか、私も分からないが、どうして中部地方だけが偏りがあるのか疑問である。見やすいのはB者の色合いだと考えており、今のところ総合的にB者を推薦したいと思う。

今野委員

吉田委員の話にあったとおり、慣れた地図ということで、A者の方が色がはっきりしているし、活字も太くて読みやすいと思っていたが、あらためて見ると必ずしもそうとばかり言い切れないような気がしてきた。B者の方はA者に比べて、地震、津波、東日本大震災の関連について詳しく分かりやすいという点では、B者もいいと思う。

ただ、A者の33、34ページ、太平洋戦争の戦場になった場所が記載されていて、これは歴史との連動もあり、二度と忘れてはならないことだということでは、こういう表現、戦場の記述があるということだと考えた。立体地図、鳥瞰図

について、例えばロッキー山脈は言葉で覚えていたが、こういう山脈だというのがはっきり見えるのは、記憶に非常に残ると思う。将来いろいろな所を旅行する時に、非常に参考になりそうな気がしたので、立体地図、鳥瞰図というのは非常にいいなと感じた。

全体としては、A者を推薦したいと思う。

永 広 委 員

吉田委員の発言にもあったように、これは基本的には地図であるので、眺めて世界の各地、日本の各地がどうなっているかができる限り分かりやすい、あるいは地名を探すときに探しやすいというのが第一だと考えている。資料について見ると、いろいろあるもの、ないもの、それぞれにあって、トータルで見るとそれほど大きな差はないと思う。

選定協議会の中で大きな意見が挙がっていた鳥瞰図の問題について、例えばA者で言えば51, 52ページにヨーロッパの鳥瞰図、B者では同じ地域のものが37, 38ページにある。先ほどからの各委員の意見にあるように、A者の方が色は鮮やかで濃い、例えばA者のヨーロッパの鳥瞰図を見ていただくと、たしかに陸地の山脈や平野の配置は誇張されていて、ある意味見やすいが、結構色がどぎつい。特に、海のブルーが濃過ぎて、これが目立って陸のデータの理解の邪魔になっているような気がする。B者の方は色は全体に淡いが、きちんと山脈、平野の分布は分かるし、それがどういう険しさなのかということも分かる。それから、B者のいい点としては海のデータがきちんと入っていることである。海底地形が入っていて、どこまで大陸棚があって、どこから深海になっているか、あるいは海底山脈がどうなっているかというデータまできちんと入っている。見やすさという点でも、色は淡いが、B者の方が結構見やすいという気がする。

その他の点としては、各地域の段彩標高図を見ると、これもたしかにA者の方が色の差を大きくしてあるので、立体的な感じはA者の方が上だが、色が濃くて、すべての地域ではないが、山脈の部分は茶色が濃過ぎて、その上の文字が見づらくなっている部分がある。いろいろな地名を探す時、背景がやや淡めのB者の方が探しやすいという利点がある。それから、用紙が少し違って、A者の用紙はおそらく普通の用紙だと思うが、少し光沢があって反射する。B者の方はその反射を抑える紙質になっている。真っ直ぐ見れば問題はないが、特に小さな文字を探すような作業をする時には、A者よりもB者の方が見やすくなっていて、選定協議会の意見とは私の見方は若干違う。

ただ、A者の方は日本の各地の地図にも、小さな鳥瞰図を結構使っていて、各地のおおよその地形の様子を見る場合には、B者よりもA者の方が少し見やすいという気がする。また、各地域の文化遺産の付加データが地域ごとに入っている。それほど多くのデータではないが、A者にはそういう利点がある。

それぞれ一長一短あるが、地図の基本的な役割を考えると、どちらを選ぶかと言えば、B者という気がする。

教 育 長

それぞれの意見が出て、A者が4名、B者が2名という状況であり、少し議論を深めていきたい。事務局に確認する。B者の方には海底図形が特徴として描かれているが、この海底図形というのは指導上、特にどういう点でメリットがあるのか。

前川指導主事

選定協議会、調査研究委員会でも、海の深さについては話題にならなかった。また、例えばヨーロッパ州の鳥瞰図について、ヨーロッパがどのような様子なのかということ概観するページなので、特に海の深さについては学習には関係なく、話題にはならなかったし、学習上も特に関係ないと考えている。

教 育 長

特に、この海底図形を取り上げて指導することは、通常ないということか。

前川指導主事

そのとおりである。

教 育 長

A者とB者のいろいろな特徴、基本的な探しやすさ、見やすさというご意見が出

た。そういう点であらためて、今一通りの各委員のご意見を聞いて、こういう意見があるというものがあれば、お伺いしたい。齋藤委員は、B者の海溝の表現のすばらしさをお話しされた上で、A者は環境問題を取り上げられていて、トータルではA者というご意見であった。あらためて各委員のご意見を聞いていかがか。

齋藤委員

先ほども申し上げたように、B者の方でまずすばらしいと思ったのは、海底図形である。なぜかと言えば、大震災を受けた東北地方であるし、子どもたちも海溝がどのように出来ているのか、またプレートがどのように出来ているのかということは、地上の部分だけではなく海底の部分も勉強すべきということを考えてためである。ただ、やはり見慣れているのかもしれないが、パッと見開いた場合にA者の方が探しやすいと思った。たしかに光るとか言われると、それもそうだなという気がするので、少し悩んでいる。

教育長
草刈委員

草刈委員にもあらためて聞くが、いかがか。
鳥瞰図に関して言えば、たしかにB者の方は色合いが優しいので、文字が浮かび上がって探しやすいが、そもそも鳥瞰図というのは全体を見て地形を把握するためのものという意識で見ていたので、やはりA者の方が見やすいと思う。海溝についても、先ほど事務局からお話があったように、特に学習の面では支障がないということもあり、またA者の方でも10ページに世界の地形ということで海溝の様子もきちんと取り上げられているので、私はどちらかと言えば、見やすいA者の方がいいと思う。紙質が光るという意見は昨年度の小学校の教科書採択の際にもあったが、たしかに2者を見比べると光るが、他の教科の教科書はA者のような紙質なので、あまり紙質についてはこだわらなくてもいいのではないかと考えている。

宮腰委員

なかなか難しい。使い慣れているという感じからすると私もA者だが、地域のそれぞれの場所の地名なりを探す、索引等を見ると全く同じというか、五分五分である。鳥瞰図が見やすいという評価もあるが、やはりA者を推したいと思う。

教育長

吉田委員、先ほどはB者ということだったが、あらためて各委員の意見を聞いていかがか。

吉田委員

個人的な視力の問題なのかなと思うが、やはりB者の方が見やすい。地図本来の活用の仕方というのは、どういう地名なのか、何がどこにあるのかということである。当然高低差を把握するということもあるが、どこに何があるか、地名は何かということが優先されるという視点で見ると、やはり色調がある程度抑えられているにも関わらず、高低差が明らかになっているところから、B者の方が見やすい。

教育長
今野委員

今野委員は先ほどA者ということだったが、あらためていかがか。
初めはA者と思っていたが、各委員の意見を伺って、本当の僅差だと思えてきた。ただ、アメリカ合衆国の鳥瞰図に関しては、大きさが大分違うということと、興味を持ってそうなところの絵が描いてあったり、地名が書いてあるという意味では、単なる鳥瞰図より少し面白くしているということがあるので、なかなか難しい。

教育長
前川指導主事

ユニバーサルデザインという意味では、どちらが上だと考えたらよいのか。
事務局としてユニバーサルデザインの点で特に何かコメントがあれば。
ユニバーサルデザインについて、趣意書にはA者、B者とも工夫されていると記載されている。

今野委員
教育長
永広委員

前よりも僅差になってしまったが、A者で変わらない。
永広委員、各委員のご意見を聞いて、いかがか。
内容としては同じことになるが、最初に両方の地図を見比べたときに色の鮮やかさという点ではたしかにA者である。鳥瞰図もより強調されているのはA者で、A者がいいと思ったが、やはり色合いが強過ぎて、ヨーロッパにしるアメリカに

しろ世界地図の背景の色が強過ぎて、文字を読む時に結構目が疲れる。先ほど言ったように、俯瞰図についても決してB者は見づらいわけではなく、情報としては、むしろ分かりやすいと思う。海底地形は、私が専門家だからかもしれないが、中学校では教えないので、そういう意味では無視してもいいのかもしれないが、大陸は陸地だけではなく、海の下に沈んでいる部分が実はもっと大事である。たまたま海水があるだけで、海水を取ったときに一体、我々が言う大陸とは何かと言うと、大陸棚の縁までを大陸と呼ぶので、そういう意味では海底地形が入っていないと、実は地図を見たことにならない。そういう意味では、B者は正道であり、A者はその点を省略している。昔の地図、以前は、海は海としてしか扱っていなかったの、そういう扱いである。中学校の地図として見た場合に、そこまで必要がないと言われればそれは無視してもいいが、色の強弱を考えても、見やすいのはB者だということは今も変わりはない。

教 育 長

再度ご意見をお聞きしたが、基本的にA者の方が4名、B者の方が2名に変わらない。これまでのご意見を聞いて、少し趣旨を変えてもいいというご意見がもしあれば、伺いたい。

齋 藤 委 員

今の永広委員のお話を聞くと、まさに本当に私も勉強したいなという部分があったので非常に悩んだところだが、やはり初心に戻ってみると、その辺りはもう少し子どもたちの意識の問題で、自分たちで勉強しようという子どもたちが学習の上で海底地図を考えていくのもいいと思った。

他の委員にお聞きしたいのは、例えばA者の60ページのアメリカ合衆国の地図のところに、日本の地図がうっすらとピンク色で書いてある。日本とアメリカ合衆国を比べるとこういう大きさだということが地図の上で分かる。同じくA者の57ページにも、日本が北アメリカ、南アメリカの大きさからすると、このぐらいの大きさだというあたりも示してある。果たしてこれは邪魔になのか、あるいは比較対象としてあった方がいいのか、各委員の意見をお伺いしたい。

教 育 長

委員の皆様聞く前に、指導上まずこれがどういう位置づけなのかを、事務局に確認したい。

前川指導主事

同緯度の日本で言えば、どこなのかということがイメージ出来る。地図帳以外に地球儀も学習では扱うが、地球全体のイメージがわくようにつくられていると考えている。

教 育 長

面積の大きさの確認や、緯度の確認に資するというので、その参考にする。これも必ずこうしなければならないというのではなく、A者はこういう工夫がされているということである。齋藤委員、少し先ほど悩んでいるというお話があったが、今時点ではいかがか。

齋 藤 委 員

A者のままとしたい。

教 育 長

あらためて、ご意見が変わったという方はいるか。

草 刈 委 員

質問であるが、例えばA者で扱うものとB者で扱うものと、授業で子どもたちに指し示した場合に、見つけやすい、あるいは見つけにくいという視点での協議はなかったのか。授業で扱う中で、何かを地図上で探さないという時に、どちらの方が見つけやすい、見やすいという、そういう細かいところの議論はなかったのか。

前川指導主事

地図を見比べてA者、B者どちらが見やすくて、どちらが見にくいというような意見はなかったが、地図の使い方については選定協議会や専門委員会等で意見が出ていた。地図帳については、地図一般図だけではなく、その他の主題図や写真資料も合わせて使うことによって、より効果的に使えるのではないかという意見である。

教 育 長

地図の見やすさ、見つけやすさというだけでなく、他の資料も使って総合的に指

導することで、より理解を深めるという意味だと理解した。

あらためて各委員の意見は基本的には変わらないということだが、ここはいずれにしてもどれかに決めなければならない。人数としてはA者が4名、B者が2名である。B者の方であらためて、これまでの意見を踏まえていかがか。

吉田委員

たしかにA者を推す委員がおっしゃるとおり、そういう見方もあると思う。決してA者が劣っているということではなく、A者もそれなりに配慮して素晴らしい地図を作っていて、単に見え方による違いという感じがする。

例えば索引を見ても、やはりB者の方が活字が大きく、生徒たちには引きやすいという印象を与える。そういう意味でB者も捨てがたい魅力があるが、多くの方がA者の色合いが子どもたちにいい印象を与えると受け止めているのであれば、それはそれでやむを得ないと考えている。

永広委員

結論としてはやむを得ないというところである。先ほどからいろいろなご意見を伺ったが、私の地図に対する基本的なスタンスからすると、やはりB者の方が地図帳としては優れているということは、変えるわけにはいかない。しかしながら、教科書としてどちらを選定するかというところで多数意見としてA者を選ぶということについて、特に反対するものではない。

教育長

A者を推薦された方でB者に趣旨変えがないということであれば、A者でやむを得ないというご意見もあった。非常に拮抗していて、難しいところだが、決定しなければならないので、総合的に今の話を踏まえると、A者を協議の結果として選定していくということによろしいか。

各委員

異議なし。

教育長

ご異議ないようなので、地図に関してはA者ということにしたい。

【社会（歴史的分野）】

教育長

次に、社会（歴史的分野）について協議を行いたい。事務局から、学習指導要領における目標や選定協議会答申等について、ご説明をお願いする。

宮内指導主事

中学校「社会 歴史的分野」について、説明する。

中学校「社会 歴史的分野」では、（1）歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させ、それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる、（2）国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる、（3）歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、多民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う、（4）身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高め、様々な資料を活用して歴史的な事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる、ことを「歴史的分野」の目標としている。

選定協議会においてとりまとめた中学校「社会 歴史的分野」の全発行者の特徴は、別紙資料1答申の「別紙1」の4・5ページにお示ししている。

選定協議会の答申にある選定協議会として推薦する発行者は、同じく「別紙1」4・5ページにあるA者とB者とF者である。

選定の主な理由については、A者は「我が国の歴史の大きな流れを理解させたり、世界史を背景に広い視野に立って学ばせたりする点に工夫が見られ、多様な見方、考え方を前提にした学習が期待できる。」ということである。

次に、B者は「見開きページの左側にある時代スケールは、生徒が学習する上で分かりやすいように工夫されている。」ということである。

最後に、F者は「仙台市採択の観点(4)(5)(6)に沿う内容が、バランスよく示されている。」ということである。

教 育 長

ただいま事務局から説明があったが、社会(歴史的分野)においては、別紙資料6として選定資料の別冊が宮城県教育委員会から示されている。選定協議会ではこの別冊を踏まえて、どのように活用し、どのような議論があったのか、あらためて事務局から説明願いたい。

宮内指導主事

選定協議会においては別紙資料6の社会科(歴史的分野・公民的分野)別冊の8ページにあるb-1, b-2, b-3において、具体的な人数等が挙げられていることについて話題になった。発行者によって取り上げている人数に差があるが、人物だけに特化するような形ではなく、我が国の大きな歴史を考えさせたり、世界史の歴史を背景に広い視野に立って考えるという形がよいのではないかという議論があった。

また、別紙資料2の調査研究委員会専門委員報告書の21ページについて、例えばC者の学習と指導に関するところのところで、総ページ数や人数等を確認して、各地域の文化遺産や偉人の足跡を多く取り扱うことで、日本や郷土を愛する態度を養う工夫がされているというような表現で掲載している。

教 育 長
吉 田 委 員

事務局から説明があったが、質問等はあるか。

今の選定資料に関して、人物を取り上げてカウントしている。それが各者によって違いが生じていることについて、小学校の学習指導要領解説書などについては、「これこれを取り上げて学習すること」というように学習する内容が具体的に表記されている。今回扱う中学校の歴史においても、学習指導要領解説書にそのような表記があるのか。その表記と扱う人物の人数、扱う人との相関について教えていただきたい。

宮内指導主事

小学校については、歴史上の人物で取り上げる人物の例ということで42名ほど具体的な名前が記載されているが、中学校については、具体的な人物名や人数については記載されていない。

吉 田 委 員
宮内指導主事

そうすると、中学校の場合には、各教科書会社の判断によると理解してよいか。

各教科書会社の編集方針等によって人数の違いが出ているということになる。調査研究委員会あるいは専門委員会でも、人数の差については編集方針の差によるものであろうという意見が出されていた。

今 野 委 員

A者の6ページには、仙台七夕との関連など東日本大震災のことが記載されているが、他者でも仙台関連のものは記載されているか。

宮内指導主事

震災関係の写真などを活用しながら、各者とも仙台に関わる部分は何か所か載っているが、学び方の部分でこのように詳しく載っているのはこのA者のみである。

今 野 委 員

A者の20ページ、21ページに「タイムトラベル」として「縄文時代を眺めてみよう」というものが載っている。紀元前35世紀から紀元前20世紀ごろのある場面ということだが、どの場所なのか地名は記載されていない。右側の囲みの部分を見ると、東北地方のある集落、九州地方のある集落の様子というように記載されている。ここは、おそらく青森県の三内丸山遺跡のことだと思うが、あえて「ある場面」というようにした意図は何か、分かる範囲で教えていただきたい。例えば三内丸山復元想像図のように記載してもらえれば、非常に理解しやすいと思う。

宮内指導主事

教科書趣意書等には具体的な遺跡のことについて記載されていないが、ビジュアルで迫力のある形で伝えるということが記載されている。

今 野 委 員
宮内指導主事

ある場面ということ自体については、あまり意味がないということか。

趣意書には特に記載はないので、分からない部分である。

- 今野委員 日本全国に至るところにこういうものがたくさんあったように受けとられる可能性があるかと思うが、青森県の三内丸山のようなところはそれほど多くなかったように思う。
- 教育長 21ページの囲みの中には、「左は縄文時代と言われる時代で、東北地方のある集落の様子です」という説明が入っている。東北地方のどことは記載されていない。ただ、東北地方という取り上げ方をしている。これを見る限りでは、青森県の三内丸山かどうかは分からない。そういう意味で、縄文時代のイメージ図的な捉え方ということで理解してよろしいかと思うが、いかがか。
- 宮内指導主事 そのとおりだと思う。学習指導要領には、各時代の初めに各時代をイメージさせるという部分があるので、そういうものを踏まえていると調査研究委員会等で話題になった。
- 齋藤委員 選定協議会から推薦されたF者、A者、B者の3者について、もう一度特徴的な点について説明していただきたい。
- 宮内指導主事 先ほど申し上げたことの繰り返しになるが、A者については、我が国の歴史の大きな流れを理解させたり、世界史を背景に広い視野に立って学ばせたりする点に工夫が見られ、多様な見方、考え方を前提にした学習が期待できるということである。B者については、見開きページの左側にある時代スケールが、生徒が学習する上で分かりやすいように工夫されているということである。最後にF者については、仙台市採択の観点、4、5、6に沿う内容がバランスよく示されているということである。
- 草刈委員 選定協議会の資料のH者について、資料として図表や写真等が多く掲載されていて、総合的に見て取り組みやすい工夫がなされているが、やや詳し過ぎるということだが、どういうところがネックになっているのか。また、同じくH者で、Yチャートを活用した学び方を提示しているとあるが、Yチャートというものは、子どもたちにどれだけ周知されているものなのか。小学生のうちに知り得ることと理解してよいか。
- 宮内指導主事 1点目については、選定協議会の中では、補説の部分などの文字量が多過ぎるという意見があった。Yチャートについては、いわゆるシンキングツールと呼ばれるものの一つである。小学校あるいは中学校で、Yチャートを含めてシンキングツールについて、学校で授業をしている学校もあれば、使っていないところもある。各学校の実態によるということである。
- 教育長 他にご質問はないか。それでは、意見の協議に入りたい。各者の数が多いので、ご推薦を含めてご意見をいただければと思う。
- 永広委員 まず、ざっといろいろな歴史の紙面の構成や特徴について見ていきたいと思うが、紙面の大きな構成は各者あまり変わりがなく、各節は見開きの2ページで完結し、資料の置く場所、文字を入れる場所もほとんど同じ構成になっている。多少文字の見やすさ、見にくさというのはあるが、それほど大きな違いはない。その中で特徴を見出だしていくと、まずA者は各章の末に絵があって、「タイムトラベル」という絵中心のページがある。まとめでは文字ではなく想像を膨らませた絵を使って振り返りを行っている。同時に囲み記事もたくさん配置されていて、他者では2、3者が充実しているが、A者の囲み記事は充実していると思う。先ほど今野委員がおっしゃっていたように、調べ方のところで、仙台市の例が6ページにわたって載っていて、これは特に導入に近い部分なので、非常に大きなインパクトがあると思う。B者は、各編の最初に見開きの解説があって、各編に入っていくという構成になっている。いくつか図版中心の特集があって、いろいろな興味を引くような工夫

がされていると思う。

C者は、人物を通して見るというのが基本スタンスで、たくさんの人物を取り上げているが、やや多過ぎるという感じがする。

D者は、囲み記事がたくさんあるということと、「なでしこ日本史」というのが全部で5つあり、女性を視点とした見方をしているというところが、他と違っているところだと思う。

E者は、版が非常に大きくて、かなり余裕のある紙面構成になっている。

F者はA者と同様、囲み記事が非常に充実していて、歴史のいろいろな深まりを確かめることができる。また、囲み記事の中に女性のコラムが7編あって、D者とはまた別に、女性の視点から歴史を眺めるという工夫をしていると思う。

G者も、囲み記事がかなり充実していると思う。

H者も、囲み記事が多いが、他の者と比べるとそれほどでもないような印象である。

内容については、すべてについて触れ始めると大変なので、視点を一つに絞った。私は地球史をやっているので、人類史と地球史は少し違うと思うが、人類史で一番気をつけなければならないのは、例えば中国の歴代王朝は、王朝が変わるたびに歴史を書き直した。それは主として自らの歴史の正当化を図るという役割だったが、現代の歴史書はそのようなことがあってはいけぬ。いかに歴史に学んでそれを未来に生かしていくかという意味で、多面的にいろいろな考え方に基づいて、いろいろな視点できちんと歴史を見なければならない。

その中には、例えば日本という領域をとってみれば、いろいろな時代ごとにあつた異なる文化や民族をきちんと見ていかなければならないと考えている。例えば、東北・北海道地域で見ると、中世には蝦夷という存在があつたわけだし、中世から明治の初めにかけて特に、時期によっては青森県十三湊までアイヌの生活圏があつて、日本のその他の地域の人たちと交流をしていた。ただ、その交流の歴史は当然いろいろな複雑な歴史を持っている。それをきちんと押さえているかどうか。

それから、南を見てみると、現在の沖縄県、琉球があつて、江戸時代には琉球国という一つの国を作っていた。江戸時代に薩摩藩の事実上の支配下に置かれ、明治になって最初が琉球藩で、沖縄県という形で日本の一部になるわけだが、それも決してごく自然になつたわけではなく、例えば参政権というものを考えてみた時に、沖縄県の人々の参政権獲得というのは、日本の他の県の人たちに比べて大きく遅れていた。必ずしも同じ扱いではなかつたという歴史がある。

そういう点をきちんと押さえているかということを見てみると、例えば北方の問題については、比較的よくきちんと押さえていたのは、A者、B者、G者である。南の方、琉球を中心としたところをきちんと押さえていたのは、A者、B者である。もちろん他の者でも記述されている者もあるが、記述がほとんどない者もあつて、今挙げた教科書は、そういう意味で歴史を押さえる努力をきちんとしていると思う。

こうした中身の問題と、先ほど述べたいろいろな構成など全体の問題を見ると、A者、B者、G者、それにもう一つ加えるとすればF者の教科書が優れている。順位をつけるとすると、A者が1番で、次いでB者、G者という順位である。

今野委員

参考のために伺いたい。C者とD者について、選定協議会の答申書に近現代において人物の取り上げ方について懸念があると書いているが、具体的にどういふことか、後で教えていただきたい。

A者、F者はそれぞれ全体的に歴史の流れを捉えるのには非常にいいと感じていた。レイアウトについては、A者の「学習を振り返ろう」というものが非常に分かりやすくシンプルでいいと感じた。F者は唯一「歴史の中の大震災」のページがあつて、震災を経験した方、今後起きるであろう地域の方々にとっては、非常に興味

深い内容だと感じた。

私としては、全体的な内容について比較するのはなかなか難しいところがあるが、A者が一番いいという印象である。

宮内指導主事

先ほどのご質問について、選定協議会では、今まで聞いたことのないような人が載っている教科書はいかがなものかという意見があった。

今野委員

それは、C者、D者のどちらにも言えるということか。

宮内指導主事

どちらの者に対しても同じ内容の意見があった。

吉田委員

歴史は内容教科なので、その内容のあり方というのは大きく影響すると思うが、ある近現代史を大切に扱う、あるいはある特定の人物たちをクローズアップするかという個性的な違いはあると思うが、総じてすべてに隈なく触れた教科書編集が全者でなされていると思う。

私の教科書を見る視点としては、やはり生徒にとってどうなのかという点である。小学校でも歴史は学んだが、その時はどちらかという点で、中学校になるといわゆる通史的という意味で、線になってくる。そういう意味で、子どもたちが果たして学べる内容になっているのかという視点で見た時に、A者が一単位時間の学習課題、そしてその振り返りとしてのまとめ方が確認資料や説明資料ということで、子どもたちに働きかける面では効果的だと考えている。「タイムトラベル」について、この時期の子どもたちにとって、イメージとしてこのような雰囲気だったという捉え方をすることは、その次からの学びには役立つと思うが、少し気をつけなければならないのは、一つの固定観念になってしまうということである。

B者については、中学校の歴史学習のポイントを知らせるコーナーを設定している。各時間の学習課題があって、振り返りとして確認活用ということで、一定のリズムで学習をするのには役立つと考えている。事務局からの説明もあったが、左側に年表がついているということで、今学習しているところの位置づけということが分かるので、通史的概念には効果的だと思う。

F者については、小学校から中学校への学びの橋渡しとして、かなり工夫していると思う。年表的なもので小学校ではこういうことを学んできた、その章が終わった後には、中学校ではこういうものが加えられたという振り返り、そして学びの確認ということをしやすくなっていると思う。また、同じように各章の初めに、絵と資料でもって今までどういうことを学んできたのか、それでは中学校ではこういうことについて学ぶという呼びかけがされていることが、非常に効果的だと思う。

もう一つの視点であるが、子どもに限らず我々もそうだが、地域の歴史というのは一体どうなのか、それを知ることによって、やはり中央史との関連を考える。どちらかと言えば、教科書は中央史が中心になっている。したがって、足元の歴史ということも学びのきっかけになると考えている。別紙資料6の選定資料の9ページに、宮城に関する歴史的事象を取り上げている箇所数ということで、各者の違いが出ています。私としては、もう中学生なので宮城というよりは東北地方まで視野を広げていいと考えている。したがって、東北地方の歴史上のことをどう取り上げているのか、数はどのくらいなのかカウントさせていただいた。カウントの仕方もいろいろあるが、吉野作造と原敬というのは大体同じページにあるので、それを1か所と数える形でカウントしたところ、A者が30数か所、B者は20数か所、F者が30数か所で取り上げていた。そういう意味では、A者とF者が子どもたちにとって学びのきっかけを提供してくれる教科書だと考えている。

総合したところ、先ほどの「タイムトラベル」というようなところ、固定観念を植えつける可能性があるという意味では留意しなければならないが、総じてA者の方が子どもたちの学びとしてはいい提案をしていると考えている。

齋藤委員

結論から言えば、私もA者である。やはりこの「タイムトラベル」がポイントに

なっているという気がする。全体的なことでは、私は世界の中の日本ということをよく理解すべきというところに視点を置きたいと考えているので、そういう視点で見た場合には、A者とF者が優れていると思う。

F者にとっても魅力に感じる点は、教科書を開いた時に美術館のように写真や絵画がきちんと映されていることである。それがあまりに鮮明だが、戦時下のページになると非常に暗い色になっている。このあたりを子どもたちがどのように感じるかと考えると、戦争は非常に悲惨なものだということを焼き付けるためにも、この部分は非常に暗いイメージがあって、平和に向けての子どもたちの礎になるのではないかという気がして、非常にF者の写真使いはとてもすばらしいと思う。

ただ、全体的に見てA者を推したい。

草刈委員

すべての教科書が、導入からいろいろな工夫をしていると思う。私も同じようにA者を推薦させていただきたい。まず、歴史の調べ方やまとめ、発表の仕方までも丁寧を示している。支倉常長も取り上げられているように、仙台市の歴史を学ぶ上で生徒に関心が深まる内容だと考えている。支倉常長は他にD者しか扱っていないもので、生徒も歴史に興味を持っていただけたと思う。領土問題も、しっかりと「歴史を探ろう」というところに2ページに渡って掲載されており、考えさせるという工夫をしていると思った。

B者については、きちんとキーワードが示されているので、課題と確認がとても分かりやすくなっている。また、ページの左の方に年表が載っている。子どもたちは、その年表がどの時代に接するか迷うところだが、それがとても分かりやすいので、B者もいいと思うが、最終的にはA者を推薦する。

宮腰委員

私も結論から言えば、A者である。その次、甲乙つけがたい2番手はF者とB者で、その3者がまず候補と考えた。

各者の数が多かったので、これはどうかかなということで、私が考える視点から見て、消去法で絞り込むという形にした。私の大きな視点としては、中学校の段階では日本史と世界史という形での区分がないので、世界の中の日本、そのバランス、その関係性、特に交流なり関係性というのはどう位置づけられてきたのかという点に着目した。そういう点からすると、G者は日本史が中心になっていて、人物が中心の教科書になっている。先ほど選定協議会の意見の説明があったが、あまり個人の人物史に傾斜するのは好ましくないということで、G者は若干その点が厳しいと考えた。D者も同じように、人物中心の教科書である。

C者とE者については、いろいろと歴史的な事象を取り上げているが、全体としてのつながりが見えないし、断片的な部分が非常に目立った。特にC者は、世界とのつながりが見えないというところが目立った。

H者は、非常に細かく多方面に渡って世界史的な視野に立った歴史観を強調しているが、全体として世界史を強調し過ぎていて、全体の流れが非常に見えにくくなっている。

そういうことで、A者、B者、F者の3者について検討した。結論から言えば、A者を1位、B者とF者はほぼ同じだが、B者、F者の順と考えた。

A者については、世界の中での日本の歩みが非常によく読み取れるようになっている。特に、市民革命以降の西洋とのつながり、第一次・第二次大戦や冷戦時代も含めて、非常によくまとめられている。

B者については、私の専門分野と関係するが、教育や人間形成の観点を非常に重視しているという点が、この者の特徴だと思う。特に、教育の近代化、あるいは第二次大戦後の教育改革というところを、他の者にはない形で重要視して描いているところが特徴的であり、非常に有意義なものになっているので、B者を2番手として評価できると考えた。

F者については、非常にバランスがよく配列されているというのが、第一印象である。世界史の中の日本史という観点についても、十分満たしている。

世界史と日本史とのバランス、特に近代以降の世界との関わりを中心に選定して、A者を第1位とし、第2位をB者あるいはF者である。ほぼ同じだがB者を2位にしてもいいと考えている。

教 育 長

一通りお聞きしたが、結果的には各委員ともにA者を推薦するということがあった。そういう意味で選択することは容易だが、歴史分野の教科書に関しては関心が高いので、もう少し議論を深めていきたい。

草 刈 委 員

永広委員と宮腰委員からは8者すべてにご意見をいただいた。他の委員の方で、選定協議会から推薦されたA者、B者、F者以外で、ご意見があれば伺いたい

E者について、とても大判で見やすく、写真も大きいし学びやすいという印象である。ただ、他の小さめの教科書と比較した時に、情報量や資料などが同じくらいあったほうがいいのではないかという印象である。最後の部分には夢というものを取り上げて、生徒にとっては前向きになれると思った。

C者については、冒頭で詳しく歴史学習について説明しているので、大変親切だと思い、とても興味深く読ませていただいた。一方、中学1年生になったばかりの、今まで小学生だった子どもにとっては、少し文字数が多過ぎるのではないかと思った。テーマなどもとても分かりやすく、大人としてはすごく読んでいて楽しいが、子どもにとっては四文字熟語など少し難しい表現があるので、もったいないなと思いつつながら、拝見させていただいた。

G者について、タイトルや見出しなど言葉にとっても工夫があつていいと思ったが、同じように独特な言い回しがあつて、内容的にはとてもすばらしいが、タイトルとしては少し分かりにくいと思った。ただ、コラムなども充実して、領土問題もしっかり取り上げていたので、こちらも大変すばらしい教科書だと思って拝見した。

齋 藤 委 員

D者について、先ほど永広委員がおっしゃったように、「なでしこ日本史」が非常に女性に視点を置いていて、面白いと思った。

E者について、巻末に地球の誕生からの年表が縦に大きく一覧になっていて、一目で見られるので、とても面白いと思って拝見した。

吉 田 委 員

E者について、読み物のようにになっている表記のものがあつて、非常に入り込みやすいという特徴があると思う。一方で、流暢に流れるものだから、子どもたちがなぜと疑問を持たないまま終わってしまう可能性がある。その辺をさらに補説するような資料が掲載されていれば、もっともっと学びが深まるのではないかと思った。

C者とH者については、表現表記が敬体ではなくて常体で、子どもたちに固さを感じさせるという一つの要素になっていると思う。C者は、神話を大変豊かに扱っていて、そこは一つの興味として持っていけると思う。「もっと知りたいコラム」というのがどの項でも非常にインパクトがあり、この辺に触れて子どもたちの自由な発想で考えていくという位置づけがあれば、もっともっと面白かったなという印象を受けている。

今 野 委 員

C者について、コラム的な感じで字数が制限された中で、効果的に説明されていて、興味深いなと感じた。

ただ、全般的な教科書として見ると、やはりA者がオーソドックスな感じでいいと思う。先ほど質問した「タイムトラベル」であるが、この一部は間違いなく想像図ではなく、青森県の三内丸山遺跡だと思う。ただ、その他が想像図なので、ここはある場面というふうに表示されている。次の22ページに「三内丸山遺跡では」と書いてある次の行に、P20ページのBの1の部分の柱の部分は間違いがないが、あとは想像図だということで、20世紀頃のある場面というように記載している。全てそのような感じの内容になっており、このように記載している意味が分かった。

教 育 長 特にこの時代は、なかなか証拠となるものがなく、生活というのはほとんど想像するしかない部分なので、時代が古過ぎると限界があるということで、イメージ図にならざるを得ない。

他にご意見はないか。

一通り皆さんにも補足を含めてお聞きした。あらためて歴史に関しては、内容も含めると非常に長大で、限られた時間内での議論というのは限界がある。そういう意味で、調査委員会等でもいろいろ検討していただいて、さらに選定協議会でもご議論いただいて今日に至ったわけである。特に歴史分野、次の公民的分野も含めて、宮城県の選定資料も提供されている上で、より幅広くに検討を深める素材は揃っている。皆様のご意見もおおむね伺った。そういうところで、各委員の推薦としては、6名の方全員がA者であったので、社会（歴史的分野）に関してはA者に協議結果はまとまったということによろしいか。

各 委 員 異議なし。

教 育 長 ご異議ないようなので、社会（歴史的分野）に関してはA者ということにしたい。

【社会（公民的分野）】

教 育 長 次に、社会（公民的分野）について協議を行いたい。事務局から、学習指導要領における目標や選定協議会答申等について、ご説明をお願いする。

宮内指導主事 中学校「社会 公民的分野」について、説明する。

中学校「社会 公民的分野」では、（1）個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う、（2）民主主義の意義、国民の生活の向上と経済活動のかかわり及び現代の社会生活についての見方や考え方の基礎を養うとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる、（3）国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる、（4）現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる、ことを「公民的分野」の目標としている。

選定協議会においてとりまとめた中学校「社会 公民的分野」の全発行者の特徴は、別紙資料1答申の「別紙1」の6・7ページにお示ししている。

選定協議会の答申にある選定協議会として推薦する発行者は、同じく「別紙1」6・7ページにあるA者とD者とG者である。

選定の主な理由については、まず、A者は「仙台市の重要な施策の一つとして取り組んでいるファイナンスパークの取組と関連付けて、生徒に経済的自立を考えさせることが可能である。」ということである。

次に、D者は「地理的分野・歴史的分野の学習を踏まえた構成になっており、社会に踏み出す子どもたちに必要な能力を身に付けさせる視点で構成されている。」ということである。

最後に、G者は「経済分野を通して、パン屋の経営者から見た連続したコラムを設定しており、学習内容を身近に感じさせるように配慮されている。」ということである。

教 育 長 先ほどの社会（歴史的分野）でもお聞きしたが、社会（公民的分野）においても、宮城県教育委員会から選定資料の別冊ということで資料が出ている。選定協議会や

調査研究委員会等で、この別冊を踏まえてどのように活用されたのか、どのような議論がされたのか、説明願いたい。

宮内指導主事

選定協議会においては、審議の中では別冊をもとにした議論は特になされていなかったが、調査研究委員会の専門委員報告書においては、別冊の大項目別のページ数の割合や記述内容に着目して、発行者の特徴をまとめている。別紙資料2の28ページに示しているとおおり、文末の括弧の中に別と示しているところは、この別冊を参考にしながら作ったものである。

教 育 長
齋 藤 委 員

まず、質問等はあるか。

選定協議会から推薦されているのは、A者、D者、G者の3者であるが、その3者が共にファイナンスパークの取組みと関連づけているということだが、このあたりをもう少し具体的に教えていただきたい。

宮内指導主事

選定協議会の際には、3者合わせた形で話があった。経済の視点から各発行者を見た場合、経済的な子どもたちの自立や金銭面の指導に結びつけていくことができる記載になっているという意見があった。

齋 藤 委 員
教 育 長
宮内指導主事

特に教科書のどの部分ということではないのか。

例えば、D者だと何ページのどの辺か、そういうことを具体的に説明できるか。

A者については、例えば120ページと121ページが該当する。D者については、120ページと121ページになる。G者は、先ほどパン屋の話をしたが、例えば120ページ、121ページが活用できるというところ、また124ページに株価が出ており、そういうところがファイナンスパークに関連づけられている。

永 広 委 員

選定協議会から推薦された3者は、それぞれファイナンスパークとの関連について記載されている。特に推薦理由の説明で、A者だけファイナンスパーク関連のことを根拠として挙げられたが、この3者の間でファイナンスパークとの関連に差があったということか。

宮内指導主事

3者に差があったわけではない。3者とも同じように良い特徴として挙げられている。

教 育 長

先ほどの説明ではA者だけ推薦理由の中で取り上げたが、D者もG者も同じような取扱いで、特に差はないと理解してよいか。

宮内指導主事

そのとおりで。

草 刈 委 員

ファイナンスパークは授業としては総合の時間を活用すると思うが、公民の授業としても取り組まれることになるのか。

宮内指導主事

総合の時間等が中心になるが、他教科との関係に関連づけるという意味で、こういうところで関連してくることになる。

草 刈 委 員

公民の配当時数が定められているようだが、他者がおおよそ100時間となっているのに対して、F者は66時間となっているが、これは特に何か問題はないか。

宮内指導主事

F者については66時間となっているが、軽重をつけたりまとめの時間などでも弾力的に柔軟にできるようになっているので、特に問題はない。

草 刈 委 員

選挙権の年齢が18歳以上に引き上げられるなど変更になっているものがあるが、先ほどの地図の統計資料と同じように、採択された後に正しいものに修正されるものと考えてよいか。

教育指導課長

現時点では必ず修正されると申し上げられないが、先ほど話したように、子どもたちの手に渡る前には各者で修正を加える。今お話しがあったものが修正されて子どもたちに届くということもあると思うが、はっきりと断言することはできない。

今 野 委 員

今の関連で、現在、集团的自衛権について国会で議論されているが、集团的自衛権に関しては、どのような記載になっているか。

宮内指導主事

例えばC者においては、57ページの右側にコラムとして取り扱っている。A者

においては、70ページの本文や、69ページ右側の4つあるうちの一番下のグラフに意識調査についての結果という形で掲載されている。B者においては、152ページと165ページに集団的自衛権についての記載がある。F者においては、94ページと95ページに自衛隊に関わる記述がある。そのような形で各者取り上げている。

教育長
宮内指導主事

基本的に各者取り上げていると理解してよいか。

今現在、先ほどお話しした教科書等については、集団的自衛権あるいはそれに近い説明などがされている。また、宮城県教育委員会が作成した別紙資料6の社会科学（歴史的分野・公民的分野）別冊67ページ以降に自衛隊に関する内容ということで示されており、集団的自衛権あるいはそれに関わるような内容についての記載等が含まれている。

教育長
宮内指導主事

この資料からすると、各者で取り扱う量は当然違うが、何らかの形でそれぞれ取り上げられているということか。

各者とも自衛隊に関わる場所、平和主義、領土等に関わる場所のいずれかで、集団的自衛権あるいは集団安全保障という点から記載されている。

教育長

この教科書も今年3月末の作成ということなので、今の政治状況とタイムラグがある。先ほど草刈委員のご質問にもあったように、いずれ来年度使用する教科書については、現状と違うところは可能な限り修正されるものと認識しているが、あらためて、そういうことでよろしいか。

教育指導課長
教育長

そのとおりである。

公民的分野も非常に関心のある分野の教科である。そういうところであらためて選定協議会の議論も踏まえながら、皆様にまた意見をお聞きしていきたい。選定協議会の推薦した者で限定することなく、7者全般に見渡していただいてご推薦の者をお話しいただきながら、各者の意見も含めてお話いただきたい。

齋藤委員

どの者もととても興味深く読ませていただいた。私は選定協議会から推薦されていないが、E者の目次が非常に見やすく、系統立っていると感じた。7者の中で、福祉について取り上げているのはE者だけである。166ページに「福祉の課題を追究しよう」とあり、公民では非常に大事な部分だと考えているので、E者を推薦したい。

D者について、「公民にアクセス」、「公民にチャレンジ」というコーナーがあり、繰り返し掲載されているので、子どもたちが自ら学ぶ意欲につながっているということで、D者を2番目に推したい。

草刈委員

A者については、表紙の裏で公民の意味と、地理・歴史の関係がとても丁寧に書かれていて、また情報の読み取り方がとても丁寧に説明されている。読み取った上でブレインストーミングということで、またそれを発信していくというものも取り上げていて、生徒にとってはさまざまな場面で学習できる機会があると思った。特にバリアフリーのコラムでは、点字なども示して、そういうものの理解も深めようという思いが伝わってきた。

D者については、公民の説明を丁寧にしている、平和主義についても、中学生に分かりやすい表現をして考えさせる工夫をしていると思った。また、仙台市の復興や防災のページもしっかりと取り上げていて、国連防災世界会議についても取り上げている点が、やはり身近な社会ということでもいいと思った。もう一つ、目次にしっかりと津波や地震の災害写真が入っている部分があるというのを、ページの下の方に細かい形での記載であるが、そういう配慮をしており、私はD者を推薦したいと思った。

宮腰委員

最初に、ファイナンスパークの取組みとの関連について話があった。先ほど人権・経済・平和主義を公民の主要な柱にするという説明があったが、かなり経済

的なところが強調されている者が多いが、私が考えることとしては、まずより良い社会を形成するというところで、立憲主義ということと人権というところを強調すべきではないかということである。そういう観点からすると、D者が最初にグローバル化、それから文化的な共生社会を形成するというところから入っていくが、最初に人権が強調されている点が特徴の一つだと考えている。特に第2章では、人権の歴史をマグナカルタから年表を作りながら、日本国憲法や世界人権宣言というところが強調されている。この辺の人権や立憲主義というところが非常に重要な柱であるということをもっと学ぶというところから、公民分野がスタートするということが適切だと考えている。そういう意味では、D者がその条件を満たしていると考えている。

それから、特に気になったのは、これは当然と言えば当然なのかもしれないが、現政権の意向がかなり表面に強く出ている。例えばG者について、最近の秘密保護法の成立等について記載されているということもあるが、自公圧勝という言葉や、現政権の首相の写真がかなり頻繁に出てくる。時代の流れや時代的なテーマということで仕方ないと言えば仕方ないのかもしれないが、あまり適切ではないのではないか。内閣の仕組みと役割など、次から次へと現首相が出てくるが、子どもたちが過ごす3年の間にまたどう変化するかということも含めて、あまり現政権を強調するのは適切ではないのではないかと考えている。そういう意味で、先ほどの人権ということを第一に、政権に関わりなく考えるというところを強調した次第である。

そういうところからすると、順序としてはD者を第一候補だと考えている。

E者は、全体にイラストや写真が少し見にくいという感じがした。少し雑然とした雰囲気があるという気がした。

先ほど申し上げたG者については、経済あるいは現政権にかなり力を傾斜し過ぎている。

A者については、先ほどの世界の貧困の問題、南北問題から安全保障の問題、人権の問題、環境問題、非常に全般に渡ってバランスよく取り上げているというところが、A者の特徴だと考えている。そういう意味で、A者も候補に入ってくると考えている。

C者については、現憲法あるいは立憲主義ということについての十分な言及がないということが気になった。

永 広 委 員

公民の中身は結構盛りだくさんであるが、やはりスタートは日本国憲法の精神、そこで重要なのは国民主権、平和主義、基本的人権という3つの柱であり、まずはその3つの柱について確認した。

国民主権については、すべての教科書がもちろん触れているが、若干微妙なニュアンスの差があって、特に帝国憲法と日本国憲法の違いをきちんと踏まえて、国民主権について言及しているという意味では、F者とG者がきちんと書いている。他者にももちろん記載されているが、例えばD者、C者はやや誤解を招く表現があるので、もう少しきちんとしていただきたいと思った。

平和主義については、いろいろな書き方があって記述量もそれほど多くないが、憲法の前文についても触れながら、平和主義の精神について触れているのは、E者とF者だけであった。

基本的人権あるいは自由という問題については、これとの対置で、例えば公共の福祉や義務という問題がある。たしかに公共の福祉、義務もきちんと捉えなければいけないが、公共の福祉という概念がきちんと個人の中に生まれてくるのは、まずは個人の人権、自由の尊重があってこそである。その徹底から、他の方にも基本的人権があり、自由があるのだという認識に至って、初めて公共の福祉とい

う考え方が出るような気がする。したがって、教科書では最初に、その基本的人権や自由、あるいは差別がいけないというような点を十分に浸透させて、次いで公共の福祉、義務になると思う。そういう目を見た時には、D者とG者が優れていて、次いでF者だと思った。G者は詳しく記載しているが、子どもの人権に関する記述がなかったようなので、改良して欲しいと思った。ただ、それ以外についてはきちんと書かれていた。この3者が、基本的人権という意味ではきちんとした記述になっていたと思う。

憲法については、いろいろな法令等の資料が巻末にすべての教科書について、もちろん日本国憲法はすべての教科書に載っているが、B者だけ用語解説がついていない。他の者は憲法のそれぞれの用語についてきちんと用語解説がついていて、この点は改良すべき点だと思った。

3つの柱以外の部分について、例えば紙面構成を見てみると、D者がいろいろ効果的に図や写真を使っていて、資料をうまく生かした教科書になっている。G者もそれに比較的近い内容である。A者は、紙面全体がかなり明るくて見やすく、多数のコラムがあるという意味で優れていると思う。それから、A者とD者は巻末の用語解説がかなり充実していると思う。

仙台ということで見ると、D者が「深めよう」で2ページにわたって震災関係で仙台を取り上げているというのは、本筋の問題ではないが、親しみという意味、入り込みやすいという意味ではプラスだと思う。

以上のような点を総合すると、なかなか甲乙つけがたいところがあって、D者とG者がいろいろな意味で優れていて、差をつけられないでいる。今のところほんのわずかな差であるが、どちらかと言えばD者を推すが、G者も非常にいいと思う。

今野委員

D者の14, 15ページに、岩手県釜石市や福島第一原発が載っており、近県のことに取り上げられていて、これも興味深い。今、永広委員からお話があったように、112ページには2ページにわたって「東日本大震災からの復興と防災」ということで、仙台を例にとって記載されている。これも親しみやすいと感じている。

平等権という意味では、部落問題やアイヌの問題がある。実際そういう問題に直面することは非常に少ない。それよりも今は時代の流れの中で、障害者と共存共栄していかなければならないという時代になってきたので、特に民間企業に障害者の方が入社してきた場合、変な目で見るということがないようにするためには、教育が非常に大事だと思う。そういう意味では、G者は133ページや47ページに取り上げられているし、A者は49ページに「障害のある人と共に生きる社会」ということを書いている。D者は48, 49ページ、あるいは230ページに法的な問題などもきちんと書いてあるので、全体として見るとD者がいいと思う。

吉田委員

各委員が指摘しているように、内容については、例えば自衛隊や領土の扱いというのは、その量の違いはあるが、すべての者がくまなく触れているということで大きな問題はないと思う。一番期待したのは、18歳からの参政権をどこの者が取り上げるかと思っていたが、タイムラグということで編集には間に合わなかったようである。参政権はやがて来る18歳、中学生にとってはきちんと触れていくべきことだと考えている。

中学生にとって公民という言葉は、新しい言葉であって、一体どんな学習をするのかという状況にあると思うので、その辺の橋渡しをきちんとしてあげなければならないので、学習というところに焦点をあてて意見を述べさせていただく。

A者について、経済面で、例えばライフプランを考えようということで、非常に

子どもたちの興味を引くところがある。また、家計と収入というところで、身近なところから経済を考えていくというところでは非常に提案性が高いと思う。

C者について、「法の入口」というような言葉があった。各章に「何々の入口」ということで、学習の内容について触れて、子どもたちも学びやすいと思っている。特に、法のところでは、自転車事故を資料として扱っているということは、子どもたちにとっては身近なことで、インパクトの強さ、法への誘いという意味で効果的だと思っている。

D者の面白いところは、2章の導入のところ、「ちがいのちがいの」というコーナーを設けている。そこで用いたカードを章の中でもその一部を使って振り返りをさせていて、非常に統一的で効果的だと思っている。また、経済分野で、コンビニエンスストアの企業という疑似体験をさせている。これはまさに子どもたちの興味を引くところである。D者は、全体的なベースに人権ということに重きを置いているという印象を与えてくれる。特に、子どもたちにとって非常に身近であるインターネットの扱い方でも人権に関して2ページ使っている。この辺は子どもたちにとっても役立つと思う。

G者について、憲法の学習で中学生の行動をもとにして、民主主義、人権、日本国憲法というところで、身近なことを発端にして憲法を学ばせるというように、しっかりとスモールステップが踏まれているという感じがした。G者でもページ数こそ1ページだが、インターネットと人権ということで、インターネット上における人権の扱いを大切にしているという印象を受けた。

総合してみると、我々の社会の仕組みということは、個々の人権があって初めて成り立つものということを考えて時に、その辺を丁寧に扱っているD者を推薦したい。

教 育 長 一通り各委員のご意見をお聞きした。各者取り上げていただいたが、またあらためて、補足的にこの者についてコメントしたいというご意見があればお伺いしたい。

草 刈 委 員 先ほど選挙権の年齢に関連して質問したが、D者の40ページのコラムには、賛否両論があるが18歳に引き上げの検討をしていると取り上げている。

教 育 長 この時点では進行形の話だったが、ここは実際の状況に合わせて今後修正される可能性がある。他にご意見はあるか。

各委員の意見としては、D者が5名であった。齋藤委員はE者ということだが、D者は2番手というご意見であった。あらためて齋藤委員、各委員の意見をお聞きして、いかがか。

齋 藤 委 員 福祉の点を大きく取り上げていたので、E者を推していたが、先ほど委員の皆様がおっしゃったように、人権問題から考えていくことであれば、D者で全く問題はない。また、D者においても、55ページに「高齢者の人権と社会保障」ときちんと取り上げているので、全く異論はない。D者で結構である。

教 育 長 そうすると、D者に変更しても構わないというお話である。選定協議会のご意見でもD者も含まれているということを含めて、意見はまとまってきた。ここもいろいろ関心の高い教科であるが、内容等について、この意見もお話ししておいたほうがいいのかという点があれば、もう一度お聞きしたい。何かご意見はあるか。

先ほどの県教委の別冊資料では、自衛隊に関する内容、集団的自衛権のところに関連づけて触れられていたかなというところであるし、自由、権利についての記述とか、責任、義務、宗教や伝統文化、天皇に関する内容、領土の問題、拉致問題というものが、県教委のほうでは資料等で参考に示されている。この点について特に何か委員の皆様から、今までの議論以外にご意見等があれば伺いたい。大体、皆さんご意見は出尽くしたということですのでよろしいか。

それでは、改めて齋藤委員から再度のご意見をいただいたので、他の委員のご意

見も含めると、D者が推薦の1番目というところで共通となったが、協議の結果D者ということによろしいか。

各 委 員
教 育 長

異議なし。

ご異議ないようなので、社会（公民的分野）に関してはD者ということにしたい。

4 閉 会 午後6時2分

ABC対応表

| | | |
|----|---|------|
| 国語 | A | 東京書籍 |
| | B | 学校図書 |
| | C | 三省堂 |
| | D | 教育出版 |
| | E | 光村図書 |

| | | |
|------------|---|------|
| 国語 (書写) | E | 東京書籍 |
| | A | 学校図書 |
| | B | 三省堂 |
| | C | 教育出版 |
| | D | 光村図書 |

| | | |
|------------|---|------|
| 社会 (地理) | C | 東京書籍 |
| | D | 教育出版 |
| | A | 帝国書院 |
| | B | 日文 |

| | | |
|------------|---|------|
| 社会 (歴史) | F | 東京書籍 |
| | G | 教育出版 |
| | H | 清水書院 |
| | A | 帝国書院 |
| | B | 日文 |
| | C | 自由社 |
| | D | 育鵬社 |
| | E | 学び舎 |

| | | |
|------------|---|------|
| 社会 (公民) | D | 東京書籍 |
| | E | 教育出版 |
| | F | 清水書院 |
| | G | 帝国書院 |
| | A | 日文 |
| | B | 自由社 |
| | C | 育鵬社 |

| | | |
|------------|---|------|
| 社会 (地図) | B | 東京書籍 |
| | A | 帝国書院 |

| | | |
|----|---|-------|
| 数学 | A | 東京書籍 |
| | B | 大日本図書 |
| | C | 学校図書 |
| | D | 教育出版 |
| | E | 啓林館 |
| | F | 数研出版 |
| | G | 日文 |

| | | |
|----|---|-------|
| 理科 | E | 東京書籍 |
| | A | 大日本図書 |
| | B | 学校図書 |
| | C | 教育出版 |
| | D | 啓林館 |

| | | |
|------------|---|-------|
| 音楽 (一般) | B | 教育出版 |
| | A | 教育芸術社 |

| | | |
|------------|---|-------|
| 音楽 (器楽) | A | 教育出版 |
| | B | 教育芸術社 |

| | | |
|----|---|------|
| 美術 | C | 開隆堂 |
| | A | 光村図書 |
| | B | 日文 |

| | | |
|----|---|------|
| 技術 | A | 東京書籍 |
| | B | 教育図書 |
| | C | 開隆堂 |

| | | |
|----|------|------|
| 英語 | E | 東京書籍 |
| | F | 開隆堂 |
| | A | 学校図書 |
| | B | 三省堂 |
| | C | 教育出版 |
| D | 光村図書 | |

| | | |
|----------|---|-------|
| 保健体 育 | C | 東京書籍 |
| | D | 大日本図書 |
| | A | 大修館書店 |
| | B | 学研 |

| | | |
|----|---|------|
| 家庭 | C | 東京書籍 |
| | A | 教育図書 |
| | B | 開隆堂 |